

研究区分	教員特別研究推進（教育推進）
------	----------------

研 究 テーマ	シナリオを活用したシミュレーション教育の臨地実習への効果に関する研究				
研究組織	代 表 者	所 属 ・ 職 名	看護学部・教授	氏 名	林 みよ子
	研究協力者	所 属 ・ 職 名	看護学部・教授	氏 名	山田 紋子
		所 属 ・ 職 名	看護学部・講師	氏 名	前野 真由美
		所 属 ・ 職 名	看護学部・講師	氏 名	鈴木 郁美
		所 属 ・ 職 名	看護学部・助教	氏 名	中岡 正昭
		所 属 ・ 職 名	看護学部・助教	氏 名	長谷部 美紀
		所 属 ・ 職 名	看護学部・助教	氏 名	植田 春美
		所 属 ・ 職 名	看護学部・助教	氏 名	中村 卓樹
	発 表 者	所 属 ・ 職 名	看護学部・教授	氏 名	林 みよ子

講演題目
急性期看護学実習におけるシミュレーション教育の実践と質的評価
研究の目的、成果及び今後の展望
【研究の目的】 本研究は、周手術期看護を学ぶ急性期看護学実習の期間中に高機能シミュレータを用いた手術直後の看護実践シミュレーション教育を組み込み、それが学生の学習効果に及ぼす影響を質的に明らかにすることを目的とする。 【成果】 今回、急性期看護学実習の初回学内学習日、次のステップで5～6名の学生を対象にシミュレーション教育を実施した；（１）教員は学生に収集した受持患者の情報から考えられる術後合併症とその観察点を学生同士で検討させる、（２）学生は教員が高機能シミュレータで設定した手術直後の患者状態に応じて観察を実践する（３）教員は学生とともに実践を振り返りながら気になる実践の理由を発問し検討させる、（４）学生は検討内容に基づいて再度（２）を実践する。その結果、学生は、既習の周手術期看護に基づいて受持患者の状態を想起しながら術後合併症とその観察点を検討することで、より個別的な看護実践の判断プロセスの理解を深め、翌日からの術後患者の看護への自信を高めることができ、このシミュレーション教育への高い満足感と術後患者に対する看護への高い関心を示した。一方、このシミュレーション教育は祝日等の関係で実習２日目もしくは３日目に実施したが、受持患者と関わる時間やより多くの情報を持つ実習３日目に実施した学生の方がより個別的なアセスメント・実践につながった。 【今後の展望】 看護学生を対象とする臨地実習と関連づけたシミュレーション教育に関する先行研究では、初学者を対象の基礎看護学実習前の看護技術習得、最終学年の統合実習前の多重課題の達成に焦点を当てた研究はいくつか報告されているが、３年生の看護学領域実習開始後にシミュレーションを組み込んだ学習の効果については見当たらず、今回の成果は意味ある結果であると言える。今回は、学生のリアルな反応を詳細に捉えるため、学習効果を質的に捉えた。シミュレーション教育の効果に関する国内先行研究でも、ほとんどが学生へのインタビューや課題レポートによる評価や研究者が独自に作成した評価表を用いた評価を行っている。一方海外では、信頼性・妥当性を検証したツールでシミュレーション学習に対する学生の満足・自信、シミュレーション体験やシミュレーション仮想実習の体験の満足度を測定している。これらのことから、日本でもシミュレーション教育の効果を量的に捉えること、学生の学修の達成度を客観的に評価することが不可欠であると考え。それにより、今後ますます需要の高まるシミュレーション教育の効果を対象の背景や学習進度による比較を可能にし、より臨床的なシミュレーション教育の根拠を提供することに寄与できると考える。